

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	大正区
学校名	大阪市立南恩加島小学校
学校長名	樋口 和弘

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・南恩加島小学校では、第6学年 40名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率は、国語科は市平均より6ポイント、全国平均より7.7ポイント、算数科は市平均より6ポイント、全国平均より6.4ポイントそれぞれ下回っている。全国平均を1とすると国語科は0.89、算数科は0.9で平均との差が大きかった。

平均無解答率は、国語科は市平均より0.2ポイント、全国より0.3ポイント、算数科は市より4.7ポイント、全国より4.7ポイントそれぞれ高く、何とか解答しようとする態度が平均に達していなかった。特に記述式の問題に対する無回答率が国語科・算数科ともに非常に高かった。それに伴い、記述式の問題に対する平均正答率が国語科・算数科ともに低く、市平均より国語は11ポイント、算数は7.6ポイント、全国平均より13.3ポイント、算数は8.5ポイントも下回っている。

質問紙より、「同じくらいの時刻に寝ている(95.1%)」「同じくらいの時間に起きている(97.6%)」「将来の夢や目標をもっている(82.9%)」「学校に行くのは楽しい(92.7%)」「いじめはどんな理由があってもいけない(97.6%)」に肯定的な回答をする児童は、市・全国平均を上回っている。

「朝食を食べている(87.8%)」「自分には良いところがある(82.9%)」「人が困っているときは進んで助ける(90.3%)」「人の役に立つ人になりたい(95.1%)」に肯定的な回答をする児童の割合は高いが、市・全国平均をやや下回っている。

「学校に行くのは楽しい(92.7%)」と肯定的に回答する児童が多い。「算数が好き(78.1%)・大切(92.7%)」「理科が好き(90.3%)」「英語が好き(75.6%)」「国語は大切(95.2%)」であると肯定的に回答する児童が多く、市・全国平均を上回っている。「国語が好き(60.9%)」な児童はやや少ないが、全国平均とほぼ同じである。「1時間以上学校以外で学習している」児童は34.2%で、市より14.5ポイント、全国より20.4ポイント下回っている。また、「全くしない」児童は17.1%で、市の13.7%、全国の5.3%に比べて多い。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできている(70.8%)」に肯定的な回答をする児童が・市より9.5ポイント、全国より15.5ポイント下回っている。

「普段1日当たりにゲームをする時間が3時間以上」「普段1日当たりにSNSや動画視聴をする(学習やゲームを除く)時間が2時間以上」の児童がどちらも56.1%で、市・全国平均を上回っている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕全ての項目（区分）において平均正答率を下回っている。「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方」において、「漢字の書き」については比較的身についており、基礎・基本を大切に指導してきた成果といえる。しかし、重文における主述関係をとらえる力が十分ではなく、言語に関する基礎・基本の定着をさらに図っていく必要がある。また、「情報の扱い方」に関して、自分の考えが伝わるように表現の工夫をする必要がある。「思考力、判断力、表現力等」の「読むこと」に関することが平均より10ポイント以上下回っている。特に物語の全体像や人物像を読み取り、想像し、それらについての自分の思いを記述に基づきながら文章に表現することに課題がみられる。

〔算数〕全ての項目（区分）において平均正答率を下回っている。特に、「データの活用」領域の平均正答率は、市より13.4ポイント、全国より14.3ポイントそれぞれ下回っている。表やグラフからデータを正確に読み取ったり、分類・整理したり、データに基づいて予測をしたりすることに課題がみられる。「数と計算」領域における『計算のきまり』や「図形」領域の基礎的事項については平均正答率を上回っており、「数と計算」「図形」領域における基礎的・基本的な知識・技能や思考は身についている。学習したことを活用して問題を解決したり、自分の考えをもって解決にあたり、その考えを説明したりすることに課題がみられる。

質問調査より

「朝食を食べている(87.8%)」「同じくらいの時刻に寝ている(95.1%)」「同じくらいの時間に起きている(97.6%)」に肯定的な回答をする児童の割合が高く、基本的生活習慣は問題なくできている。

「自分には良いところがある(82.9%)」「将来の夢や目標をもっている(82.9%)」と肯定的に回答する児童の割合は高く、自分を大切にし、目標を持って前向きに過ごしているといえる。また、「人が困っているときは進んで助ける(90.3%)」「いじめはどんな理由があってもいけない(97.6%)」「人の役に立つ人になりたい(95.1%)」と考えており、他者を大事にする心が育っているといえる。自他ともに大切にしようとする心が育っているといえる。

「学校に行くのは楽しい(92.7%)」児童が多い。算数・理科・英語の学習が「好き」・「大切」であると肯定的に回答する児童は80%を超え、市・全国を上回っている。国語は、「好き」な児童は60.9%とやや低いが、全国平均と同程度で、「大切」であると肯定的に回答する児童は95.2%と高い。「学習は大切である」と意識は高く、学習には前向きであるといえる。しかし、「学校の授業以外の普段の1日の学習時間」は多くない。「1時間以上学校以外で学習している」児童は34.2%で、市・全国の50%越えには達していない。また、「全くしない」児童は17.1%で、市の13.7%、全国の5.3%に比べて多い。家庭学習の習慣が十分についているとは言えない。

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできている」に肯定的な回答をする児童が70.8%と、全国(-15.5ポイント)・市(-9.5ポイント)を大きく下回っている。話し合い活動を中心に学習指導に取り組んできたが、児童の意識としては十分とは言えない結果となった。

「普段1日当たりにゲームをする時間が3時間以上」「普段1日当たりにSNSや動画視聴をする(学習やゲームを除く)時間が2時間以上」の児童がどちらも56.1%と半数を超えており、市・全国の3分の1よりも多い。

今後の取組(アクションプラン)

国語科においては、漢字の力や語彙力といった基礎的な知識・技能の定着を更に図るとともに、「読み」「書き」に関して、物語の全体像や人物像を読み取り、想像し、それらについての自分の思いを記述に基づきながら文章に表現するといった総合的な力を育んでいく必要がある。一言感想や、一行日記等、により、自分の思いや考えを書くことへの抵抗感を低くし、徐々に書く量を増やしていくようにする。「読み」については、読書に親しむ取り組みを継続し、読書する時間を確保することで高めていく。

算数科においては、基礎的な知識・技能の定着を図り、学習したことを活用して問題を解決する場面を増やす。問題解決にあたりては、自分の考えをもって解決にあたり、その考えを説明する力を育成するとともに、友だちの考えから学ぶことで自分の考えを拡げ、「数学的な見方・考え方」を育て、学習内容を習得していくようにする。

話し合い活動を中心とした学習指導に取り組んできたが、児童の意識からすると十分とは言えない状況である。今後も、教育活動全般において、自分の思いや考えを持って伝えること、他者の思いや考えに耳を傾け分かろうとすることのどちらも大切にしていく。伝え合う活動をあらゆる場面に取り入れ、共に学ぶよさを感じることができるようしていく。

質問紙調査の結果から、家庭での学習時間が短く、ゲームやSNSや動画視聴をする時間が長いことが分かった。自ら学習に取り組む習慣がつくよう、家庭との連携を図りながら進めていく。

自他ともに大切にする心が育っているので、この心を醸成するよう、仲間とともに活動する機会を増やし、充実していく。